

## 『韓国語』

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

## 1 前文

今年の受験者総数は178名、平均点は140.04点であった。受験者数は減り、平均点は下がった。出題内容や形態は大きく変化はなかった。

第2問と第3問は、以前指摘されていた表やグラフ、絵を導入するなどの工夫が凝らされ、おおむね共通テストにふさわしい出題となっていると思われる。改善点として、第4問を含め、一つの設問の本文の文章の分量を減らし、大問数を増やすなどの工夫をしてみたいだろうか。

第1問に関しては例年の指摘を繰り返さざるを得ない。一問4点は合否を左右しうる点数である。その一問に、知っているかいないかだけを問う出題は共通テストにふさわしいだろうか。例年の指摘の繰り返しになるが、コミュニケーション能力と思考力を測る問題であるかが重要視される共通テスト外国語の問題作成において、果たして第1問がその二つの力を測れる問題になっているのか、今一度考えていただきたい。

共通テストの「英語」が「英語」を専攻とする学科への入学志願者だけが受験するのではないように、共通テストの「韓国語」も「韓国語」を専攻とする学科の志願者だけが受験するわけではない。共通テスト問題作成方針に「大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握するという目的の下、各大学が実施する試験などとの組合せにより、大学教育を受けるためにふさわしい能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定することに資するよう」作成するとある。「韓国語」を専攻とする学科への入学志願者に必要とする知識は個別試験で問うべきであり、共通テストでは、コミュニケーション能力を重視した知識や思考力を問う出題でなければならないのではないだろうか。

例年どおり本分科会では、平均点を基にした評価は行わず、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」が受験することを想定して各問題の評価を行う。また、その際の難易度の基準として、中級水準となる、韓国語能力試験(TOPIK)のⅡ(3～4級)及び「ハングル」能力検定試験の3級～準2級レベルを想定していることをここに明記する。今までもこの基準から逸脱した学習範囲外からの出題が複数見受けられるが、問題作成委員の考える学習範囲の語彙や文法・表現が高校現場における学習範囲の語彙や文法・表現から外れていると思われる出題がある。学習指導要領における「韓国語」の学習範囲は「英語」に準ずるとあるが、「韓国語」においては「英語」と学習環境も違い、受験者数や受験者層も違うため、問題作成委員と高校現場の学習範囲に「ズレ」が生じているように思われる。「韓国語」の場合、学習範囲が明記されていないため、そのような問題が生じると思われるが、学習指導要領における「韓国語」の学習範囲から逸脱した出題がないようお願いしたい。

なお、評価に当たっては、15ページに記載の8項目の観点により、総合的に検討を行った。

## 2 内容・範囲

本項目では、前文の「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」の学習到達度を測ることのできる問題であるかどうかを判断した。また、紙面の制限上、適切とは言えない問題を中心に取り上げることとする。

## 第1問

A 音の変化の規則の知識を問う問題

昨年度の繰り返しになるが、音の変化の規則の知識のみを問うことが、真のコミュニケーション能力を測ることになるかが疑問に思われる。そのため、知識のみを問う出題は決して良問とは言えない。

B 適切な助詞、語尾、語彙を選択する問題

問1は「푸르다」が「리変則」であるを知っていれば解ける問題。実は、この「리変則」の問題はネイティブも間違えやすい問題ではあるが、ネイティブも間違えるような文法の問題が、果たしてコミュニケーション能力を重視した問題と言えるのか。また、知識さえ知っていれば解けるような問題が、思考力を問う共通テストとしてふさわしい出題なのだろうか。甚だ疑問である。

問3の「두뎅다」, 「땀땀하다」, 「따끈하다」, 問5の「-거든」, 「-거니」は、学習範囲外の語彙や語尾で良問とは言えない。

問4は「이르다」の前なので助詞の「에」が来ると知っていれば解ける問題だが、会話で「에」の代わりに誤答の「나」と言ってしまうと、その意は充分に通じると思われる。繰り返しになるが、助詞の部分だけを取り出し、その知識のみを問う出題には疑問が残る。第2問以降の対話文や長文の中で問う方が、より良問となるのではないだろうか。

C 日本語文を韓国語文に直す問題

与えられた日本語の文に合うように、六つの選択肢の中から四つを選び、正しい韓国語文に並べ替える問題。その際、正答となる韓国語文が日本語文の直訳では意味が通じないことを学習者に理解してもらうことを求めている問題である。過去、本分科会においてこの日本語の直訳ではない韓国語文を作成する出題は良問となりうると述べられたが、この並べ替えの形式ではなく、四つの中から正しいものを選択する問題であった。現在の形式では、六つの中から四つを選び出さなければならず、また、それを正しい順序に並べ替える必要があり、難易度は、四つの選択肢から選ぶ問題よりも格段に上がる。同じ形態の出題をするなら、以前の四つの選択肢から選ぶ問題に戻してほしい。並べ替えの出題のままなら、少なくとも二つの不必要な選択肢は無くすようにしてほしい。

問1の「여간」, 問2の「자칫」, 問3の「눈코 뜰 새 없이」は学習範囲外の語彙や表現であり、その語彙や表現を知っているかどうかのみを問う問題は到底良問とは言えない。

第2問 比較的長い会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選んだり、会話文の内容を把握したりする問題。

A 空港のチェックインカウンターでの職員と搭乗客の会話。学習範囲内の語彙や語法で適切な問題と言える。第1問のBでの語彙や文法の出題も、この問2や問3のように会話文の中に入れての出題が望ましい。

B 祖母と孫の会話を読んで解く問題。問2の正答である「없다」は学習範囲外の語彙なので良問とは言えないが、学習範囲内の語彙であれば良問と言えた。ことわざや慣用表現、語彙も、その知識だけを問うのではなく、この問題のように会話文の中に挿入し、前後の文脈から考えられるような出題が望ましい。

第3問 グラフや図表、イラスト等を使用した出題で、実際にありそうな場面や状況を想定し作成されれば良問となりうる。

A ある大学のサッカー大会のトーナメント表からの情報を読み解く問題。学習範囲内の語彙や語法で良問と言える。

B 水着についているタグから必要な情報を読み取る問題。学習範囲内の語彙や語法で良問と

言える。

C 広告から商品情報を読み取る問題である。学習範囲内の語彙・文法を使用しており、適切な資料と言える。

問1 この商品を利用するのに積極的でない人はどれか、選択する問題である。広告と問いを読めば解ける問題であり、良問と言える。

問2 広告を見て実際のパッケージに書かれる商品説明の一部を選ぶ問題。正答は広告に全く書かれていない情報であるため、正答を導き出すためには、消去法で誤答を消していかなければならず、難易度は高かったように思われる。原材料を広告の内容と一部でも重複させる等、少しでも情報が重なっていれば、解きやすくなっていた可能性がある。本文(広告)に無い情報を推測して解かなければならず、良問とは言い難い。

問3 広告から読み取れるものを選ぶ問題である。広告と問いの文章を読めば解ける問題。良問と言える。

第4問 食べ物は様々な意味を持つが、環境のことを意識すると食べるものが変わってくる。「気候美食」という言葉を紹介しながら、その中でも韓国料理は野菜をたっぷり、植物性タンパク質も使用するので「気候美食」に該当すると論じたエッセイ。今関心の高い韓国料理、いわゆる「Kフード」の話は、高等学校韓国語学習者にとっても比較的読みやすい内容ではないかと考える。

問1 文章に使用された漢字語の1漢字と同じ漢字が使われている漢字語を選ぶ問題。以前は第1問の中で漢字語の語彙知識のみを問う問題であったが、ここ数年、文中に挿入することで自然な形での設問となっている。いずれの漢字語も学習範囲内で良問と言える。

問2 本文と問いの文を読めば解ける問題。良問と言える。

問3 ㉑～㉒の表す「世界」のうち指示対象が異なるものを選ぶ問題。難易度が高いので日本語訳をした上で見てみることにする。

全㉑世界総排出量の3分の1に達する。

消費量は㉒世界最高水準である。

韓食が「Kフード」という名前で㉓世界に広く…

それによって新たな味の㉒世界にも…

㉑～㉓はそれぞれ実際の「世界」を指しているが、㉒の「世界」は「新たな味の世界」という概念的な世界であるので㉒が答えであると導き出される。丁寧な読解力が必要であり、国語力も問われる問題である。

問4 各段落の文意を正確に把握すれば解ける問題。適当な問題と言える。

問5 「気候」と「美食」の関係と近いものを選択する問題。文意を把握していれば解答できるが、同時に国語力も問われる問題である。

問6 各段落の文意を正確に把握すれば解ける問題であるが、事例として「挙げられていない」ものを選ばなければならないため、難易度が上がったと考えられる。

問7 各段落の文意を正確に把握すれば解ける問題。良問と言える。

問8 A～Cに入るものの組合せを選ぶ問題。語彙を知っていれば解ける問題である。

問9 適切な接続詞を文脈に合わせて選択する問題。文意を正確に把握すれば解ける問題。良問と言える。

問10 各段落の文意を正確に把握すれば解ける問題。

### 3 分量・程度

全体的な分量は大きな変化はなく適当であると思われる。前文でも述べたが、全体的な分量を変える必要はないが、会話文や長文の本文の分量が少し多いように思われる。本文の量が多いと、それだけ読み返す量も多くなり、何度も読み返さなければならず、受験者にとっては、負担となるのではないだろうか。本文の量を減らし、一つの本文に対する設問数も減らせば、受験者の負担も減るのではないだろうか。例えば、第4問の場合、現在、本文が2ページに渡っているが、それを半分の1ページ程度にし、大問を第4問と第5問に分け、設問数もそれぞれ半分ずつにするのはいかがだろうか。そうすれば全体の設問数を変えずに、受験者の負担を減らすことができると考える。

#### 4 表現・形式

「センター試験」から「共通テスト」に変わり、英語では、第1問の発音・アクセント問題や第2問の文法・語法、整序英作文問題はなくなり、全て読解問題となった。その要因の一つとして、「センター試験」で課題となっていた、より実践的なコミュニケーション能力を重視した力を測る問題にするための試みがあったのではないだろうか。韓国語でも、例年指摘されている第1問の形式を変え、知識のみを問う問題ではなく、思考力を問う、共通テストにふさわしい出題形式に変えてほしい。

#### 5 まとめ（総括的な評価）

今回の共通テスト韓国語の問題は前文でも述べたとおり、おおむね共通テストにふさわしい出題となっていると思われる。特に第2問と第3問は、以前指摘されていた表やグラフ、絵を導入するなどの工夫が凝らされていた。「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」「韓国語能力試験（TOPIK）Ⅱ（3～4級）」及び「ハングル」能力検定試験3級～準2級レベル」が受験することを想定されていたと言えよう。

ただし改善点として、①第4問に関しては例年の指摘をしているとおり、知識だけを問う出題を極力避けるべきである。②そして第4問では、一つの設問の本文の文章の分量を減らし、大問数を増やすなどの工夫をすることを提案したい。③さらに、学習指導要領における「韓国語」の学習範囲から逸脱した出題がないことを願う。